

第 13 回スポーツ少年団指導者全国研究大会 分科会概要報告

【A 分科会】

テーマ：「総合型地域スポーツクラブについて（基本編）」

～チームからスポーツクラブへ～

座長：大橋 美勝

パネリスト：松田 雅彦・松尾 哲矢・松澤 淳子

< 概要 >

A 分科会は大橋座長より日本スポーツ少年団の創設時の理念というのは、「地域に青少年のチームをつくることだったのか、それともクラブをつくることだったのか？」「チームとは何でクラブとは何か？」「なぜチームではなくてクラブになる必要があるのか」という問題提起の後、各パネリストに事例を交えながら発表いただいた。

松田氏からは、チームからスポーツクラブへと移行する観点からクラブの中には幾つかのチームが存在し、その中で皆が気持ちよくスポーツができるように環境を整えていく。チームにはチームワークがあるようにクラブにはクラブワークが必要であり、これにより最終的に、種目の選択、世代別等の保証ができスポーツは誰もが楽しみながら行うという基本が成り立つという発表があった。

松尾氏からは、クラブにしていくためには具体的にチームをどう変化させていくかという話があった。具体的にはどうしたらスポーツ少年団がもっと豊かになるかという視点で物事を考える必要がある。そういった流れの中で、これまでの活動の現状を取り上げ、**単位団拡大型 単位団連合型 学校運動部連携型 他団体連携型 新規設立型** 等数多くのパターンのクラブが生まれてきているという発表があった。

松澤氏からはチームとクラブの組織や運営の違いについて発表があった。組織の違いとしてチームは監督、コーチ、キャプテンといった縦のつながりがある。一方クラブは、会長、理事長、理事といった方々が理事会を開き、方針を決定し各係にわかれて活動していく。また運営については、チームは監督を中心としたトップダウン方式である。それに対しクラブは、民主的に選ばれた人々による民主的な運営であることをシーカーの事例を基に発表があった。

最後に、大橋座長から現代社会の中では、自分たちで豊かな生活をしていくために、自分たちでスポーツの環境をつくり、スポーツを楽しむ傾向にある。そういった時代の要請の中で、スポーツ少年団から発展したスポーツクラブが大きな役割を果たしていくとの総括があり、A 分科会は終了した。